

令和6年度第2回喜多方市総合戦略推進会議 会議録

日 時：令和7年1月14日（火）10:00 ～ 11:15

場 所：喜多方市役所2階 大会議室

■出 欠

1 出席委員（14名）

星 宏一委員、五十嵐 敦委員、齋藤 百合子委員、小水 欧貴委員、牧田 実委員、村上 将臣委員、渡部 孝一委員、佐藤 明紀委員、渡部 淳子委員、五十嵐 明美委員、森田 正明委員、渡部 礼子委員、池田 満吉委員、竹野 繁人委員

2 欠席委員（6名）

大西 尚和委員、松本 榮二委員、永井 克明委員、長谷川 武之委員
岩田 悠二郎委員、花見 紀子委員

3 市出席者

市長	遠藤 忠一	企画政策部長	遠藤 紀雄
総務部長	永井 輝彦	市民部長	小荒井 浩
保健福祉部長	五十嵐 俊之	産業部長	都倉 浩二
教育部長	佐藤 茂雄	熱塩加納総合支所長	渡部 敏裕
塩川総合支所長	大場 悟	山都総合支所長	山口 和志
高郷総合支所長	佐藤 利則		
企画調整課長	長谷川 仁	企画調整課長補佐	横山 武憲
企画調整課副主任主査	久保 隆	企画調整課副主査	草刈 貴浩
企画調整課主査	佐藤 康丈		

■会議次第

1 開 会

2 市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 諮 問

5 議 事

(1) 長期人口ビジョン（案）について【資料1】

(2) 次期喜多方市総合戦略（案）について【資料2】

6 その他

7 閉 会

■議事内容

(1) 長期人口ビジョン（案）について【資料1】※資料1をもとに事務局より説明。

●委員

社会動態の推移というグラフで、最近、転出者数が少なく縮小している。その理由は何
か分析をされているのでしょうか。

○事務局

元になる部分としての人口が減少しているというのが一因として考えられます。それ
に伴って、転出が多い20代等についても、人口が少なくなっているということもあり、
その関係もあって縮小していると認識しているところであります。

●委員

今の端的な説明で非常によくわかったんですけども、最後のページにある一番下の
4項目、このお題目の中身はこれから何かお話あるんですね。

○事務局

この後、総合戦略の説明をさせていただきますが、この項目に沿って目標を掲げており
ますので、そちらで詳細について説明させていただきます。

(2) 次期喜多方市総合戦略（案）について【資料2】※資料2をもとに事務局より説明。

●委員

先ほどの長期人口ビジョンでも、こちらでも出てきております結婚・出産・子育てに関
する意識希望調査について、お尋ねします。調査自体の対象者と回答数について気になっ
た点と、また今後も、計画を進める上で、調査をする可能性があるとするれば、どのくらい
のペースで行うのかなということが気になりましたので、ご回答いただければと思いま
す。

○事務局

調査対象につきましては、市内にお住まいの20歳以上40歳以下の方、2,000名を対象
にして、調査を実施しております。調査の方法につきましては、郵送・Webによる配布・
回答を行っておりまして、回答数につきましては、472件で、回答率が23.6%となってお
ります。今後こちらのアンケートにつきましては、状況に応じて、また実施していくか検
討しております。

●委員

最初のページの地域ビジョンとかにもあるんですけども、中央が地方に対して言っ
てくる。文言とかいろんな目標だとかいろんなことを、ああだこうだ言ってくると思うん

ですけど、多分、その中央が言ってくる施策というものは、すべての地方に合わないと思うんですね。例えば、喜多方独自のいわゆる地域差があるので、喜多方独自の何かこう、ここならではのというような、そういう施策に関しては、何かお考えはあるでしょうか。

○事務局

今回、お示しした総合戦略につきましては、人口減少対策がメインということで、1番目に少子化対策に対する目標を掲げたということになります。そのような中で、実際の実施計画については各個別計画等も含めて、詳細の事業については実施していくという形になります。今回お示したのは、総花的な内容ということになります。そういったことも含めて、今回お示した事業内容や目標も含めて内容をお示することによって、今後、市の事業が実施しやすくなるということで、個別具体的な、この事業を実施するという実施計画までをこの計画の中で定めているというようなものではないという認識でいただければと思います。

この計画を定めることによって、国の方で示されているような交付金等についても、受けやすくなるというようなこともありますので、この計画に基づいて、個別計画等において、実施計画等を定めながら、各種事業を実施していくような形をとっていくということになります。

●委員

これはあくまでも概要という形で、アウトラインだけっていうことと認識します。なので、今後多分何かいろいろ内容の細かいところを決めていくときには、ちょっと地域差を考えて喜多方市の優位性、会津だけじゃなくて福島の中での優位性、東北の中での優位性、国内での優位性っていうものをぜひ検討していただければと思います。

○事務局

ご意見ありがとうございます。この目標値、KPI等については、個別に定めておりますので、その中で例えば園芸作物施設化率については、アスパラガスとかですね、あくまでも目標値については、個別計画の目標等も併せて検討しておりますので、目標値については、市の独自性も含めた目標値を設定しているような中身となっております。

●委員

例が挙げた、例えば、園芸作物施設化率で、アスパラガスが取り上げられているのはどういう理由なのか。

○産業部長

園芸作物の施設化率でアスパラガスというところでございますけれども、まず、本市の農業では水田農業というのが昔から盛んであった地域でございます。一方で、米の消費というのは減ってきているというようなところで、田んぼ全部を稲作にするのではなくて、米以外の作物も作っていく必要があるというようなことで、転作というような政策とい

うものも進められてきたというところでございます。その中で、本市におきましては、きゅうり、アスパラガス、ミニトマトといったところが代表的な転作の作物というものになっております。その中で、きゅうり、ミニトマトというところは、ハウスを張って作るというのが当たり前のような栽培がなされてきたんですけども、アスパラガスについては、露地の状態でハウスもあれば露地もあるというような、そういった栽培がされてきたというところでございます。ただ、露地ですと、病気の関係とか、あるいは、収穫時期がちょっと短いというようなところもあるので、施設化を図って、それで所得向上につなげていこうというような考え方で、アスパラガスについて掲げているものでございます。

●委員

基本目標4のところ、外国人観光客数が令和5年の基準値に対して10倍以上の数字になっているんですけども、結構大きな目標になって思ったんですけども、この10倍以上の数字を設定した根拠というか、何か具体的にこういう対策をやっていくみたいなのがあるかどうか教えていただければと思います。

○産業部長

外国人観光客数でございますけれども、マスコミの報道等でも耳にされていると思いますけれども、外国人の旅行者の国内に来る人数というのが、コロナ以降、急激に増えているということで、コロナ前を超えるような状況になってきていると、これからもますます伸びてくるであろうということと、観光庁の方でも、外国人観光客の誘客に力を入れていくと、代表的な観光地に外国人観光客を集中させるのではなくて、地方の方に向けていこうというような国の政策になっている、まずそういった背景があるところでございます。

本市においてでございますけれども、外国人観光客、旅行者というのがなかなかこう数をとらえるということが、どこでどのように人数を把握するかというところが、なかなか難しいところがありまして、これまで観光案内所、各観光案内所がありますけれども、そちらの方に訪れた外国人観光客と、宿泊された方々を、カウントしていたところですが、外国人旅行者、日本人もそうなんですけれども、喜多方で立ち寄る代表的な観光スポットというところがありまして、そういったところでも把握していこうというようなことに今、対応を変えてきたというようなところがあって、数字の方は少し捉え方というところを変えるというところもあって伸びているというようなところでございます。

どのような政策でやっていくかというところでございますけれども、今、福島空港と台湾を結んでいる航空便などもございますので、台湾を中心に外国人を日本に呼び込むという流れに合わせて喜多方の方にも来てもらおうと、福島に来た方についても喜多方に誘客していこうということで、まずはPRというところからになりますけれども、そのようなことを強化しながら取り組んでいくというような考え方でございます。

●委員

2 ページの基本目標 1 のところの若い世代の結婚・出産・子育てについて、ちょっと私は若い世代ではないんですけど、一昨年に結婚をしまして、去年の 10 月に子供が産まれました。明日で 3 ヶ月になるんですけど、前に委員だったと思いますけれども、喜多方市内に分娩のできる場所がなくなるというお話をされて、これを身をもって、大変だっていうことがわかりまして、今も毎晩、妻の実家に通い、身も心もそして財布もボロボロになり、落ち着きを取り戻したところなんですけれども、やっぱり、どれだけこの出産、結婚っていうのは大変だっていう、やはり若いうちにできるというのが一番いいのだと思うんですけども、これもやはり大変だということで、これからも自分の身をもって、これらの関係を一緒に考えていきたいなと思いました。

基本目標 4、本市への新しい人の流れを作るというところで、先ほど委員もおっしゃったんですが、喜多方の優位性というところで、喜多方には観光という意味では、全国でも有数の観光地で、優位性があるなと思っております。特に、観光客入込数の多いところに当てて、例えばものづくりですね、先ほど農業であるとか、あと工業であるとか、そういうものの PR をするとか、若い人はたくさん訪れます。前は、日本酒に関するイベントもあったので送迎バスに乗っていましたらすごい若い人が来るんです。そういうところで、喜多方の魅力を見れば、喜多方がどういうところなのか、いいところなんじゃないか、そういう思いがあって、そこから繋がって、人口を増やすのが難しいのであれば、交流人口とか、関係人口を増やす。これが大切なのではないかなと思いますので、今後、施策を考える上では、この辺りを重点的に考えていただければと思います。

●委員

やはり近年、関係人口ということで、外国からのお客様が本当に増えています。うちにも泊まっていただけるんですけど、ほぼほぼ、東京に最初入って、それから地方に行くという、ロングバケーションでいろんなところを楽しんでいらっしゃるという方が本当に増えています。ただ、この間、オーストラリアのパースから若い男性が来て、最初に入ったのは喜多方ですかって言ったらそうですって。どうして入られたんですかって言ったら、やっぱりラーメンとか、あとの静かな街の佇まいとか、そういうことにちょっと魅力を感じて入ってきましたって、4 泊してったんですけど、よくよく聞いてみると、就労ビザまではいかないんですけど、ワーキングホリデーでやってきて、観光しながら仕事を見つけて、旅費を稼いでいくっていうシステムで、ちょっとこの人は長くいるなっていう感じ。ちょっとお部屋がいっぱいだったので若松にまわしちゃったんですけども。彼がワーキングホリデーをやりたいって言ったときに、さてどこに、窓口を見つけるか、行政でもいいんですけど最初に思いついたのは国際交流協会で、でも国際交流協会はそこまで深く面倒をみることでできないから、もうちょっとまちなかの有識者、それに携わっている人に声かけようかっていうことで、今これからちょっと始まるんですけども、そういうようなまちの中で、もうちょっと外国の方の目的に応じた、その受入体制を密にしていかないと、インバウンドだの、関係人口を増やそうって言っても、役所でも限界があると思いますので、もう少し民間の中で、この間、物産協会の理事会で副市長がインバウンド部会って作

る必要があるねって、間違いなくおっしゃったので、やっぱりそういうことをやっていかないと、どんどん、素通りしていっちゃう。せっかく喜多方に来てくれたのに満足いくおもてなしができないまま、何か終わってしまうのはもったいないなって。彼がもし喜多方にいれば、1年間はワーキングホリデーの期間がありますので、1年間いたら、それだけでも人口1人増えるわけですよね。そういうやり方を考えていかないと、駄目かなっていう風に、旅館はそういう意味では最前線の場所にありますので、報告させていただきました。

●委員

基本目標3、細かいところで申し訳ないんですけども、KPIのところ、軽く汗をかく、1日1回30分以上の運動を週2回以上1年以上続けている市民、40歳から64歳の割合で、基準値が男性30%、女性24.4%で目標値が男性30%、女性30%となって、男性は横ばい。それから、同じように高齢者いきいきサロンも44地区が44地区と現状維持っていうのが目標ということになっています。そこのところの経緯というか、なぜそういう風に現状維持なのかっていうことの説明と、個人的な感想なんですけど、同じ基本目標3のSDGsの認知度の割合っていうのが、SDGsって、ここにも細かく書いてありますが、国連サミットで採択された誰一人取り残さない、持続可能性と多様性っていうようなことなんですけど、2015年の国連で決まって、今もう10年経ちますが、この10年の間、SDGsという言葉が、何となく陳腐化して、本当に、我々の社会に浸透しているのか。インターナショナルで最近あんまりSDGsっていうのを声高に言っている人達はいない。トランプ大統領にいたっては、掘って掘って掘りまくるみたいなことを言っている状況だし、大国のロシアもそういう方向。ヨーロッパもなんかちょっとあやしい。喜多方市は頑張ってSDGsにしがみつくんだったっていうのもあってもいいのかもしれませんが、別なKPIに変えてもいいのかなっていう個人的なあくまでも感想でございます。

○保健福祉部長

軽く汗をかく、1回30分以上の運動の部分でございますが、国の方の理想というか、数値的に30%ずつということを一応掲げておりまして、令和5年度におきましては、男性の方は30%あるんですけど、女性の方は24.4%と低いということがありますので、まずは男性と同じように30%に引き上げたいということで目標値を掲げたところであります。

それから、いきいきサロンについてでございますが、令和5年度44地区で、令和11年度も44地区、現状維持となっておりますが、人口が減少しているそういう状況の中で、維持していく、減らさないということも大切かということで、現実的な部分も含めまして、44地区維持という形で目標を設定させていただいたところであります。

○事務局

SDGsにつきましては、市民生活に直接関わることもありますし、市の事務事業に関してもSDGsの考え方を取り入れながら、事業を実施しているようなところもあります。ま

た、カーボンニュートラルの実現等もありますので、環境に配慮しながら持続可能性を目標として、事業を実施していくというのは必要なのかなということで今回取り上げさせていただいているところです。

●委員

SDGs についてはあくまでも個人の感想なのでそれはそれですが。

今のお答えで例えば軽く汗をかく男性 30%の目標、国が 30%、現在、本市が 30%だったら、このままでいいじゃないかというのは、やっぱり喜多方は国が目指すよりもっと健康なまちになるという意欲的な目標設定があってもいいのかなって個人的には思います。だから、あまり国が国がっていうのも先ほど委員もおっしゃったように、この地域独特のものっていうのをやっぱり盛り込んでいかないと、尖らないところには人は来ないような気がしますので、これもその一例ではないかなと感じました。

●委員

今、ちょうど委員から SDGs の話が出たんで、喜多方市の優位性っていう話を最初にさせてもらったんですけども、私個人的な話になっちゃうんですけど、私は熱塩加納というところに住んでいて、未来会議という、今会員 40 人ぐらいなんですけども、その人たちを集めて、自然がいっぱいあるまちだよっていうことではなくて、そんなの日本全国腐るほどあるから、自然豊かな町の中に、生物多様性を十分に理解した住民たちが管理していますっていうのを付け加えたいと思っていろんなことをやったりしています。そういうところが多分、今の喜多方の優位性なのかなと。なんか企業誘致します、人口を増やしますじゃなくて、今ある現状をまずはとにかく今あるところにプラスアルファして、喜多方市が優位性を持つ。喜多方市の優位性をこれから見ていくためにどうしたらいいかっていうのは、この少ない人数で考えていくんじゃなくて、例えば市民にアンケートをとってみるとか、そういうことが非常に大事かなと思います。

もう 1 つだけ言わせてもらおうと、ここは平成の名水百選、もちろん皆さんご存じだと思いますがですね。環境省が選定する重要里地里山 500 っていうのがあるんですけど、これってご存じですか。ものすごい大事な話なんだけど。環境省が選定する重要里地里山。

○市民部長

駒形地区の方が選定されていると認識をさせていただいているところでございます。

●委員

日本全国で 1700 ちょっとぐらいの地方自治体があって、全国で 500 ヶ所しか選定できないのね。だけど喜多方市には 3 ヶ所あります。後で調べてもらえばいいんですけど、実はその 1 つが熱塩加納のヒメサユリの丘です。それから沼ノ平、それと今お話があった唐沢深沢地区っていうところなんですね。すごくないですか。1700 ぐらいしかない地方自治体の中で 500 ヶ所を環境省が選定した、その選定した中に喜多方市内 3 ヶ所なんで

すよ。すごい優位性だと思いません。そういうことをうまく活用していくことが大事なのかなと思いました。

●委員

労働力というところと、人口減少っていうのは、非常に密接な関係を持っているっていうか、人口が減れば、生産に携わる人達も減ってくるのは当然のことなんですけども。そこで考えられるのが、前言っているように外国人労働者が1つと、あと生産年齢を引き上げるっていうか、60歳で定年になって65歳まで延長雇用するってことじゃなくて、これを70歳以上にするとか、おそらく多分そうなると思いますが。前はもう65歳超えと相当な老人って形だったんだけど、私ももう70歳になるんですが、70歳でも、多分働ける人はいっぱいいると思うんですね。ということは、さっき言ったその健康な体をずっと維持していくということは、非常に重要な施策になってくると思います。こういった意味では、そういった環境を行政がある程度補助してやって、作ってやって、健康な体をずっと維持してもらって、働いてもらうというのが大きな施策の1つではないかなと考えています。

●委員

委員のお話を伺っていて、この間、藻谷浩介さんの講演会を聞きに行ったときに、スイスとイタリアは特定のそんなに産業がなくても、観光立国で十分に稼いでいるということで、アルプスで酪農文化を育てたり、夏の避暑地になったり、それから雪解け水が村々に多くの花を咲かせているというような、何かそれってその話を聞いていて、喜多方には飯豊山があるじゃないかって、飯豊山の恵みでこういう発酵文化とか、蔵の街並みとか、もうストーリーがこうできているわけですね。せっかくですから私は、もっと喜多方は観光産業で食っていくべきだなって。それに付随するような雇用も生んだり、喜多方の魅力を発信できるようなDXを使って、もっと頑張っていけないと、いつ来るかわからないような企業を待っているよりはあるものを利用して、もっと喜多方をアピールすれば、外国の方もどんどん訪れるでしょうし、雇用も生まれるし、そういう方向に変えて、それが尖がっているというようなことなのかもしれませんが、やっていくべきじゃないかと思いました。

○事務局

観光も含めて交流人口、関係人口については大変重要だと思います。そのような中でも、やはり広く、いろんな産業が振興することによって、雇用されている方もいらっしゃると思うので、そのような中で雇用も生まれますし、新たな産業も生まれてくるというような考え方もありますので、この計画につきましては、いろんな面から目標を設定しながら、その目標に向かって進めていくというような計画とさせていただいているところであります。いろんな考え方がございますし、そういった尖った部分もちろん必要な部分であると思いますので、そういった部分についてもいろいろ教えていただきながら、今後も進めて参りたいと考えているところです。

●委員

すいませんちょっと私が言うべき問題じゃないような気もするんですけど、子育てをするのが大変だという話も先ほど出ていましたけど、出産から子育てそれから教育も含めて、大学とか高校生ぐらいになるまで、その子供たちに対する何か支援の仕方って何か計画があるんですか。例えば、授業料の無償化、給食費の無償化とか何かそういう、あと医療費も含めた上で、そういうものがあるのかなのかだけお伺いしたいんですけど。

○企画政策部長

現在、子供の支援ということで、例えば、医療費の支援等も行っているところでございますし、学校給食につきましても半額補助ということで行っておりまして、今、国の方でも話題になっているということもございまして、そういったものも見ながら、支援を行っている現状がございまして。これからは様々な意見を聞きながらどのような支援がいいのか研究しながら進めて参りたいと思っているところでございます。

●委員

何で私がこんなこと言ったかっていうと、東名高速を走っていると綾瀬っていう、綾瀬市って何もないところなんです。何もないのは失礼ですね。電車も通ってないし、高速の降り口もないし、インターもないっていう。何もないちょっとした市が神奈川県の一部としてあるんですが、そこでも高速は通っているんですよ。その高速道路の上のところに、高架橋みたいになっているところに、綾瀬市は、子供に関して一切お金かかりませんって書いてあるんですよ。そういうことをやっていると、すごいPR 効果ということもあるんですけど、このまちは違うまちだなんていうのが見えてくるなっていうのがいつも通りながら思っていました。

●委員

事前に資料が送付されていなかった。

○事務局

今回、9日、木曜日にお送りさせていただいて、10日到着を想定したところなんですけれども、届かなかったということですので大変申し訳ございませんでした。次回以降、早めにお送りするようにしたいと思います。

■その他

○意見等なし

以上